



ライト新聞

2016年6月号

フィラリア予防はしっかりできていますか？

フィラリアは予防薬を正しく投与できれば100パーセント防げる病気です。
シーズンが終わるまでしっかり予防しましょう。

『室内飼いだから』、『感染したら治療すればいい』といった考えで予防を怠ることは大変危険です。

予防をせず、夏を3回越すと100パーセントに近い確率でフィラリアに感染しているという統計もあります。

また、フィラリアはワンちゃんだけでなく、ネコちゃんにも感染する病気です。
大切な家族が苦しい思いをしないよう、正しい予防法で守ってあげてください。



熱中症対策を忘れずに!!



早くも夏のような暑さが感じられるようになり、半袖で過ごす方もみられるようになりましたね。

体を毛で覆われているペットたちには要注意な季節でもあります。
熱中症の9割は6～8月に発生しており、その約7割が家の中で発生しています。

散歩中のワンちゃんだけでなく、家の中で過ごしているペットたちにもしっかり気を配りましょう。



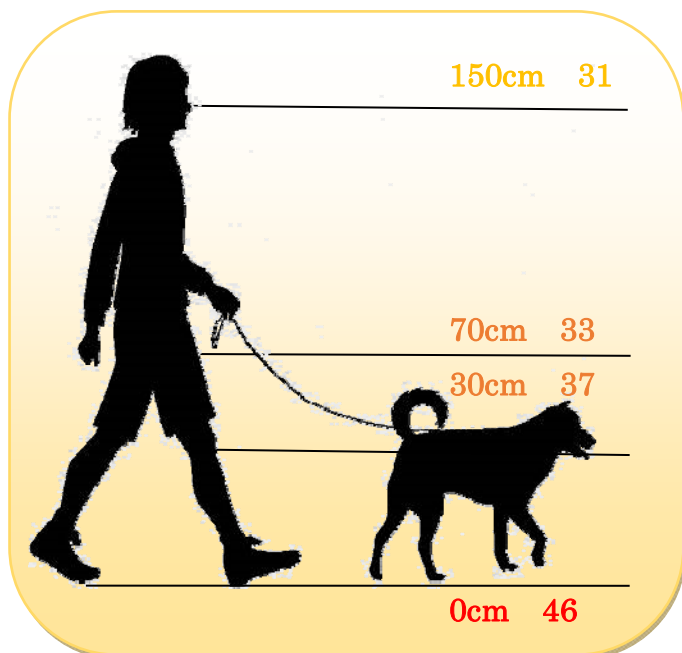
人間と犬の体感気温は違います!!

地面に近い場所を歩くワンちゃんは地面からの放射熱の受けやすく、人間より暑く感じています。

特に真夏のアスファルトは日没後でも温度が高く、火傷の原因にもなります。

お散歩は気温が上がる前の早朝に、しましょう。

やむをえず日中の外出になる場合は、クールマットを入れたキャリーバックや靴を履かせて直接地面に脚がふれないようしっかり対策をしましょう。



室内で気をつけること

室温の徹底管理

風通しが良く熱がこもらないスペースを確保します。冷房や扇風機を使って室温を管理しましょう。扇風機で直接風を当てると冷やしすぎてしまいますから、首振り機能をオンにするか、直風を避けることのできるスペースを確保しましょう。

また、夏場はまれに落雷により停電の可能性もあります。不測の事態に備えてクールマットなどでの対策も忘れずに！！



たっぷりの水分補給

いつでも水分補給ができるようにお水はたっぷり置いてあげましょう。

ネコちゃんは自発的に水を飲まず、通りがけに飲む習性があるといわれています。そのため、よくいる場所やよく通る場所の飲みやすい高さに多く水を設置して水を飲む機会を増やしてあげましょう。

屋外で気をつけること

車内に置き去りは厳禁

わずかな時間でも車から離れるときは、車内にペットを絶対に残さないようにしましょう。不慣れな場所では、興奮して体温が上昇し、短時間であっても熱中症になることがあります。

日陰でも、それまで受けた日光とエンジンの熱で車体は相当熱くなっているため、窓を開けておく程度では不十分です。クーラーをつけたままにしておいても、エンジントラブルや、バッテリーあがりなどで止まってしまうことがあります。

もし熱中症になったら

体を冷やす

涼しい場所に移動させ、お水をかけ、氷や保冷剤などを使って頭部と動脈のある頸部、わき、内股の辺りを冷やします。

水を飲ませる

水が飲めるようであれば飲ませ、反応が鈍いようであれば無理に飲ませるのはやめましょう。

病院に連れて行く

熱中症は多臓器機能障害を引き起こすおそれがあります。

様子が落ち着いたように見えても、臓器がダメージを受けていることもあるので、必ず動物病院を受診しましょう。

